

新年あいさつ

新年あけましておめでとうございます。平素より市政の推進に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。



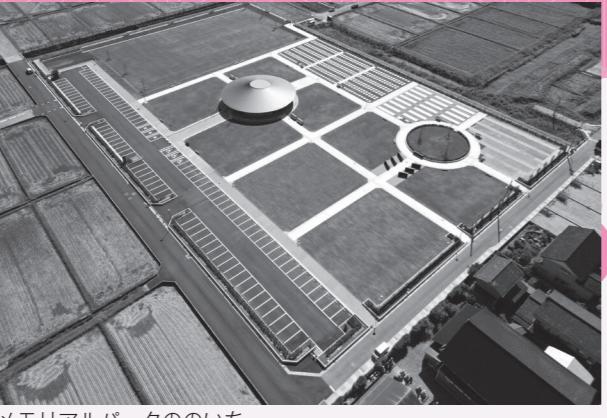
野々市市長
栗 貴章



かがやき無限大 みんなでつくる インパクトシティののいち

Withコロナと物価高騰
昨年は、「オミクロン株」による新型コロナウイルス感染症の第6波から始まり、夏には第7波、年末には第8波と、未だ収束が見えないウイルスとの闘いが続きました。国は、行動制限や経済活動制限の見直しを行い、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る「Withコロナ」へと政策転換した一年でもありました。一方、世界各国におけるコロナ禍からの経済活動の再開や、ウクライナ情勢の緊迫化、円安による輸入コスト増加などにより原油価格や物価の高騰が続いています。コロナ禍の影響を受け続けている中で、食料品や日用品、電気料金などの相次ぐ値上げに、私たちの生活は厳しい状況が続いています。本市では、物価高騰の影響を緩和するため、国の物価・賃金・生活総合対策事業に市独自の対策を加えて事業を行ってきました。私たちの生活を取り巻く状況は行き不透明ではあります、引き続き、国や県の動向を注視し、遅れることなく対策を講じてまいります。

メモリアルパークののいち
本市のことを少し振り返りますと、現在進めております中林土地区画整理事業の区域内に、昨年10月、市営墓地公園「メモリアルパークののいち」を開園することができました。平成26年の市営墓地整備等検討委員会の発足から8年、市民アンケート調査などを実施し、慎重に検討を重ね、計画を進めてきました。



メモリアルパークののいち



施設型合葬墓
樹林型合葬墓

多様化する墓地ニーズ
時代の移ろいとともに、価値観や考え方もそれぞれに変わってきていました。「メモリアルパークののいち」

開園後に実施した一次募集では、予想を上回る申し込みをいただき、市民の皆様の期待の大きさをあらためて実感いたしました。
本市には若い世代も多く、現在も人口は増え続けています。本市を選び、住まわれている方々にとって、いつかは訪れる人生の終焉を安心して迎えることは、「住みよさ」の大切な要素であると思っています。この先も「ふるさと野々市」として、そして、市民の心のよりどころとして、末永く親しまれる場となることを願っております。

インパクトシティののいち



野々市市第二次総合計画アイコン

市第二次総合計画が開始
昨年4月、今後10年間のまちづくりの基本指針である野々市市第二次総合計画がスタートしました。第一次総合計画から推し進めている「市民協働のまちづくり」に加え、「SDGsの推進」「野々市ファンの大」の3つをまちづくりの基本に据え、10年後に目指す将来都市像を「かがやき無限大 みんなでつくるインパクトシティののいち」としました。

未来に向けて本市が目指す理想は、コンパクトなまちの中に詰まつた魅力を市民の皆様と共に磨き上げ、より一層の輝きを放つことです。無限の可能性を秘めた本市の魅力を市内外に発信し、野々市の価値を市内外に発信し、野々市の価値を高めることにより、住んでみたい、住み続けたいと思えるような、そして、

市長インタビュー 「トップに聞く」を金沢ケーブルで放送します！

チャンネル初回放送 北國新聞ニュース・プラス（地デジ9ch）

1月22日(日)20:00～

※同チャンネルにてリピート放送

市第二次総合計画で掲げた将来都市像への思いなど、市が目指すまちづくりについて市長が説明します

戸丸彰子氏（フリーアナウンサー）

